

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年6月30日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ **えだまめ塾を開催**

6月8日、22日に、農業普及課とJAぎふが連携して、JAぎふ曾我屋枝豆選果場において、塾生3名を対象にえだまめ塾を開催した。

第1回は、農業普及課が講師となり、えだまめ栽培について座学を行った後、脱莢機や選果場の視察を行い、第2回は、JAぎふえだまめ部会員が講師となり、岐阜市合渡のほ場で、直播き実習を行った。

生産者からは、種を播く穴のあけ方や深さなど、畑と水田では作業方法が異なることなどの説明があり、参加した塾生からは、高品質えだまめを作るためのポイントなど多くの質問が出された。

次回の8月下旬の塾では、収穫、選別作業の実習を行う予定であり、農業普及課では、今後もJAぎふと連携し、塾の円滑な開催と担い手の育成を支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【えだまめ塾の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー **地区別ブロッコリー栽培研修会開催**

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会では、6月8日～7月4日にかけて、地域ごとの栽培研修会を開催している。

ブロッコリーは岐阜地域全域で作付され、北部の山県市と南部の羽島市では栽培環境が異なるため、農業普及課では、地域に合った作型や品種を紹介し、管内の地域リレーが行われるよう働きかけをしている。

今後、6月末に苗の注文数量を集計したうえで、7月下旬から育苗を開始する。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【地区別研修会の様子】

### ■アスパラガス **JAぎふ羽島市アスパラガス部会役員会を開催**

6月14日、JAぎふ正木支店において、JAぎふ羽島市アスパラガス部会の役員会が開催された。

今年度の部会行事計画の作成、規約の見直しなどについて協議し、部会活動を活発化させるとともに、仲間づくりにも力を入れていくことなど意識統一が図られた。

今後、農業普及課では、研修会などの開催支援を通して、部会活動を支援する予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦 香絵)



【役員会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■集落営農 **法人化支援**

6月14、29日、山県市富波公民館において、集落営農の法人化について検討会が開催された。昨年まで進めてきた中山間地域の集落営農支援から、農地中間管理重点推進事業対象として法人化支援を、9月設立を目指し、急ピッチに進めている。

農業普及課では、これまでJAぎふ、山県市役所と協議して進めてきたが、今後は農業会議や農業経営課岐阜駐在の協力も得ながら、確実な法人化に向けて支援していく予定である。

(地域支援第三係・吉田一昭)



【法人化検討会】

## 売れるブランドづくり

### ■いちご 産地戦略会議を開催

6月9日、JAぎふ黒野流通センターにおいて、第1回産地戦略会議を開催し、JAぎふ、JA全農岐阜の担当者と、岐阜地域のいちご振興方針などの協議を行った。

昨年度作成したいちご産地振興プロジェクト案の内容を見直すとともに、若手生産者への支援、特に単収向上に向けた技術的支援に重点的に取り組むこと、生産協議会（仮称）設立の目的や設立時期などについて意識統一を図った。

農業普及課では、今後も定期的に産地戦略会議を開催し、産地振興プロジェクトの進捗管理や今後の方針について、関係機関で情報共有を図り、産地振興を推進していく予定である。

（園芸産地支援第一係・小島康平、三和浩一、松浦香絵）



【産地戦略会議の様子】

### ■だいこん 第2回若手生産者との意見交換会を開催

JAぎふだいこん部会は、6月20日、JAぎふ則武支店において、若手生産者との意見交換会を開催した。

農業普及課から、今年発生した根部障害であるコブ症の発生要因とその対策、べたがけ資材を活用した春だいこんの実証結果について情報提供を行った後で、今後の産地のあるべき姿などについての意見交換を行った。

30歳代の生産者から、雇用確保に非常に苦労しているとの発言があり、雇用状況や確保のための方策が議論の中心となった。具体的には何をすべきか結論は出なかったが、産地振興を図る上で非常に大きな問題であることを出席者全員で再認識した。

次回の意見交換会は、島や合渡地区の生産者も交え行うこととなり、農業普及課では、引き続き産地振興に向けた支援をする予定である。

（園芸産地支援第一係・近藤 勝）



【意見交換会の様子】

### ■たまねぎ 加工用たまねぎの収穫完了

本巣市の農事組合法人アグリ石神は、加工用たまねぎ2haの収穫を6月10日に完了し、早生・中生品種146tを岐阜市場へ出荷した。早生品種の収穫期に降雨が続き、収穫作業の遅れが心配されたものの、6月からの恵まれた天候により、収穫作業は順調に進んだ。

一昨年から、コンテナ運搬等の重労働を省力化するため、フレコンバッグ出荷を導入しており、今年はさらにピッカー（拾上げ）とフレコンバッグをつなぐ付属器を取り付けて更なる効率化を図った。

今後、農業普及課は、作業時間や労働負荷の調査を行い、面積拡大につながるよう作業体系の見直し等の提案を行う予定である。（地域支援第三係・横田京子）



【機械収穫作業】

## 住みよい農村づくり

### ■食農教育 田植え体験学習を支援

羽島市内の小学校では、5年生が総合学習の時間を利用し、田植え体験学習を行っている。今年は、3校の約110名を対象に、6月2日、9日、13日の3日間にわたり開催された。

ほ場提供農家、JA、羽島市が体験学習を支援し、農業普及課からは、栽培する水稻「ハツシモ」の品種特性や名前の由来、手植え方法等について説明した。児童は、「面白い」「楽しい」「足が気持ち悪い」など話しながら、授業を受けていた。（地域支援第二係・山田隆史）



【田植え体験学習の様子】